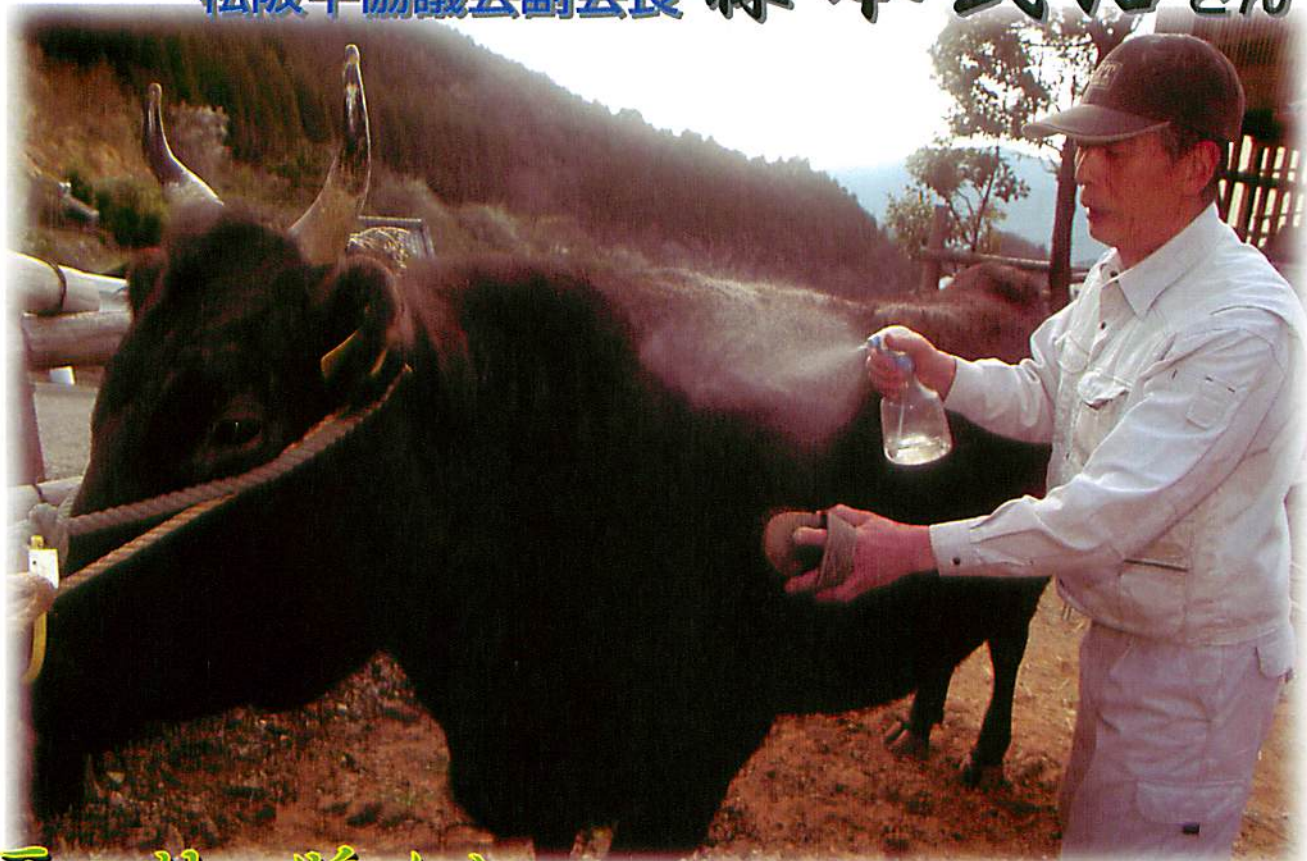


松阪牛 かわら版 4号

松阪牛協議会副会長 森本武治さん



匠の技、脈々と

松阪市の中心部から車で西へおよそ30分。国道166号線を右に折れ、だらだらと続くつづら折りの坂道を登ると、飯南町深野。急な斜面に広がる石積みで囲まれた段々田さえ、眼下に見下ろせるような高い場所で暮らす森本さん(60)を訪ねた。

真っ黒な牛の体に、霧吹きを使って焼酎を噴きつけては、ブラシで丹念にマッサージをする森本さん。牛の血行を良くし、優秀な肉質に仕上げるために欠かせない作業だ。今秋の共進会に出場予定の「ゆりふく」号も、森本さんを信頼しきった様子でじっと気持ちよさそうに体を預けている。森本さんは、徐々に光沢を増す牛の背をさすりながら「1回でも多くこすれば、それだけ良い牛になるというのが先輩の教えです」と、ブラシを持つ手に力を込めた。

森本さん宅のある深野地方は、ほんの50数年ほど前までは、牛が田や畑を耕す風景は珍しくなく、家の玄関脇にしつらえられた「うちまや」と呼ばれる牛舎で飼われた牛が、家族同様に暮らしていたという。田植え時季ともなれば、1枚の田を耕すために、近所の人たちが自分の家の牛に農具を引く道具をつけては集まった。農作業を引退した牛は「野上がり牛」と呼ばれ、農家でさらに1年ほど掛けて大きく太らせて、家畜商が連れてくる若い牛と交換し、優秀な牛には現金が支払われた。当時、深野の牛は険しい坂道で体を鍛えた後に、農家がさらに時間を掛けて太らせることや、山間地の気候や水が牛の肥育に適していることから、優秀な牛が多いと評判だったという。

・・・・・・・・次号は森本さんに牛飼いの醍醐味についてお聞きします。

松阪牛ものがたり

信頼への模索④

平成十三年九月の国内初のBSE発生からおよそ二週間。学校給食での牛肉使用禁止に続いて、生後三十カ月以上の牛の出荷停止との国の方針が決定。松阪牛の肥育農家らは、まさに身動きが取れない状態に追い込まれていた。

十月初旬、県内で出荷されるすべての肉牛をBSEかどうかを検査する体制が同月中旬に整いそうだという朗報が、県から市に伝えられる。

農家や精肉店らは「いよいよ待ちに待った出荷」と喜ぶ一方で、消費者がBSE発生前と同じように、肉を買ってくれるのか、という大きな不安を抱えていた。特に年末商戦を目前に控えており、例年ならば一年で一番需要の多い時季となるはずだが、感染源とされる飼料の肉骨粉の流通や、牛の危険部位を使った加工食品の対応など、国の対応遅れが原因で、BSE発生後の消費者の牛肉に対する不信感は募る一方。

風評も手伝って、消費者の牛肉離れは拍車が掛かり、小売店主らにとっては、このままこの状態が続けば、経営が立ち行かなくなるほど、事態は深刻になっていた。

暗中模索が続く中、多気町が十一月に予定していた肉牛共進会の中止を決定。牛の全頭検査が始まっていない中で、開催を決定するのは無理がある——との、苦渋の選択だった。

BSE発生から一カ月が経過した十月十日。連日、全国の取材陣をはじめ、肥育農家や精肉関係者らの対応に追われ続けた松阪市役所農林水産課の職員らは、十八日に始まる全頭検査に照準を合わせ、消費者に安全性をPRする計画を立てていた。

その三日後の十三日、国内で二頭目のBSEの疑いがある牛が東京都内で確認されたが、同課は「疑いのある食肉は流通しない」と、食肉の安全性は確保されていることを強調した。

松阪牛豆知識

鼻紋（びもん）

牛の鼻の紋様です。人間でいう指紋で、1頭1頭異なり、牛が大きく成長してもその紋様は変わることはありません。

生まれて間もない、ペコ牛の鼻に専用のインクを塗って鼻紋を採取し、子牛登記書に貼付して生涯“本人”確認に使われます。



写真は、平成14年に開催された第53回松阪肉牛共進会で優秀賞1席に輝き、史上最高価格の5000万円で落札された「よしとよ」号の鼻紋。
(ほぼ実物大です。)

松阪牛個体識別管理システム 信頼の証です

シールに印字された10ケタの個体識別番号で松阪牛の血統や農家の情報、移動履歴などを知ることができます。

皆さまに安全で安心な松阪牛をお届けする証を目印にお買い求めください。



発行 松阪市役所農林水産課畜産係 三重県松阪市殿町 TEL0598(53)4119

松阪牛協議会ホームページ <http://www.matsusakaushijp> もご覧ください